

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、知・徳・体のバランスがとれ、豊かな人間性と心身のたくましさを備えた生徒、さらには、高い志とチャレンジ精神によって自らの進路を切り開き、社会貢献を行う努力を惜しまない生徒を育成する。また、グローバル化が急速に進む中で、社会の課題に関心をもち、国際社会のリーダーとしてふさわしい次のような能力や態度を育む。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・コミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』を『見せる』学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立するとともに、授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～

教員の専門的知識及び教育スキルの向上を図るため、授業改善を進める。授業においては言語活動を重視するとともに、ICTをより効果的に活用できるよう取り組む。

- ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。
- イ 教員の専門的知識を研鑽する機会の充実を図る。

- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、他の教員と日常的に話し合う機会がある」の肯定的評価が平成31年度実績で90%以上（28年度実績85.7%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が平成31年度実績で85%以上（28年度実績75.9%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が平成31年度実績で90%以上を維持（28年度実績93.7%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が平成31年度実績で90%以上（28年度実績73.3%）

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、合わせて適切なアドバイス等を行う。

イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を平成31年度実績で60%以上（28年度実績45.3%）、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同35%以上（28年度実績22.9%）
- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」と回答する生徒の割合を平成31年度実績で50%以上（28年度実績38.7%）、「5時間以上」と回答する生徒の割合を同40%以上（28年度実績26.9%）
- ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を平成31年度実績で各々95%以上を維持する。（①28年度実績96.9%、②28年度実績98.6%、③28年度実績96.0%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を平成31年度で90%以上（28年度実績83.2%）
- ※ 生徒進路希望現役実現率（3年次第2回進路希望調査における第一志望校の現役合格率）が平成31年度実績で55%以上（28年度実績38.8%）

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。

イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育的行事）には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が平成31年度実績で90%以上（28年度実績88.7%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「部・同好会活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的評価が平成31年度実績で90%以上（28年度実績86.1%）
- ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、平成28年度実績を維持（28年度実績22人4団体）

(2) 人権教育・教育相談の充実

ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切にし、他者を大切にし、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。

イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が平成31年度実績で80%以上（28年度実績73.9%）、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が平成31年度実績で60%以上（28年度実績50.4%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が平成31年度実績で75%以上（28年度実績52.7%）
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が平成31年度実績で80%以上（28年度実績67.4%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携、またSGH(Super Global High School)等の取組の充実を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が平成31年度実績で75%以上（28年度実績71.0%）

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。

イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解に関する学習をする機会が充分ある」の肯定的評価が平成31年度実績で75%以上（28年度71.6%実績）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の平成31年度実績が65%以上（28年度実績52.9%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題に関心がある」の肯定的評価が平成31年度実績で80%以上（28年度実績67.8%）
- 以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が平成31年度実績で90%以上（28年度実績86.1%）

4 【課題研究】以下のテーマを掲げ、課題研究（校内研究）に取り組む。 *PT（プロジェクトチーム）、WT（ワーキングチーム）

(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成

1 (1)に掲げた授業改善を主テーマとした校内研修、首席、指導教諭を中心とした初任期教員（1～概ね3年目）に対する力量形成支援、教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等の校内への成果還元等を通して、教職員同士が学び合う機会を多く創出するとともに、教職員の力量形成における、多様な「カリキュラム・リーダーシップ」のあり方について実践的な研究を進める。

(2) 「知」の継承・発展 *本項の取組には、校内（GLHS；グローバルリーダーズハイスクール）PT、および、今年度、発展的に再編するWTが主として携わる。

ア 現在の教職員がいつまでも本校に在籍するわけではないことを前提に、これまで蓄積されてきた「経験知」を次世代に計画的に継承する仕組みと仕掛けについて研究する。

イ 蓄積されてきた「経験知」を複合的に活用して教育界喫緊の課題に先進的に取り組む。具体的には以下の2点について、平成31年度までの早い時期に指針を示す。

- ①高校教育、大学教育、入学者選抜の一体的改革の動向と今次の学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、進路部と教務部が連携協働して、北野高校独自のAP（アドミッション・ポリシー）、CP（カリキュラム・ポリシー）、DP（ディプロマ・ポリシー）を定め、その上で、「入口（入学）から出口（卒業、進学）まで、そして未来（キャリア）へ」と一貫した北野生の「育成スタンダード」（仮称）を策定する。
- ②学校を取り巻くデータのリサーチとそれを活かした広報戦略を経営課題の中核の一つに据え、これに経常的に取り組む校内組織のあり方について研究する。

(3) 「部活動休養日（ノークラブデー）の有効活用 *本項の取組には、校内（GLHS）PT、および、今年度、発展的に再編するWTが主として携わる。

平成29年度からの部活動休養日（ノークラブデー）の設定を、文武両道を真に実現する絶好機と捉え、制度を安定的に定着させつつ、それを学習時間の増加や生徒のアウトリーチ活動（校外発表活動、ボランティア、地域・社会貢献）の充実につなげられるよう実践研究を進める。

*休養日の使い方を部活単位で生徒に考えさせ、主体的・計画的な学習やアウトリーチ活動を計画実践させる。（主に副顧問がアドバイザーに就く）

*アウトリーチ活動は、例えば、地域美化活動、小中への出前チューター（生徒による学習支援）、地域のお年寄りとの交流などに部活単位で取り組むことを想定。年1～2回。

(4) 学習環境のさらなる充実

ア 指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。

*＜指導部＞生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立することにより、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組み、充実したものになるように、HRやその他の機会を捉えて啓発活動を行う。

*＜保健体育部＞生徒体育部等生徒主体の活動を尊重し、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高め、すべての生徒が進んで美化活動等の環境整備に取り組むことができるよう支援を行う。

イ 「北野らしい」授業の継続のため、予算の効率的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新を計画的に実施することを検討する。あわせて、学校のもう一つの「顔」とも言える、トイレ等、生活環境改善の可能性を探る。

- ※ (1)～(4)については、各年度計画において適切な取組指標を定め、段階的に実績を積み重ねたうえで、平成31年度までにその研究成果を明らかにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～</p> <p>ア 教職員の授業スキルの向上</p> <p>イ 研鑽機会の充実</p> <p>(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>ア 自学自習の推進</p> <p>イ キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での授業公開週間を例年通り2回実施 公開研究授業の実施 他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 校内の教員相互の授業見学を実施。 授業に係る教員研修の開催 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 研修等への参加者和其他の教員との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高める努力をさらに進める。 自学自習の推進方策についての検討を深める。(1年:教科オリエンテーションの実施、全:学習習慣定着月間=4月) 図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施 進路目標の早期設定に向けた取組の充実 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を実施した教員の割合87%以上(28年度実績85.5%)。 学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「教科指導について、他の教員と日常的に話し合う機会がある」の肯定的評価が平成29年度実績で87%以上(28年度実績85.7%)。 学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が平成29年度実績で85%以上(28年度実績75.9%)。 生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が平成29年度実績で90%以上を維持(28年度実績93.7%)。 生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が平成29年度実績で80%以上(28年度実績73.3%)。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」を平成29年度実績で50%以上(28年度実績45.3%)、「3時間以上」を同30%以上(28年度実績22.9%)。 生活アンケートの「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」を平成29年度実績で40%以上(28年度実績38.7%)、「5時間以上」を同32%以上(28年度実績26.9%)。 図書館の働きかけを通して、貸出冊数(28年度実績3,700冊)や授業での使用が増えるかどうか、データを取って検証する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価を平成29年度実績で各々95%以上を維持(28年度実績は96.9%、98.6%、96.0%)。 生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を平成29年度で85%以上(28年度実績83.2%)。 進路希望現役実現率を平成29年度実績で45%以上(28年度実績38.8%)とする。 	
2 心身のたくましさの育成 豊かな人間性の育成	<p>(1) 学校行事・部活動・課外活動</p> <p>ア 学校行事や部活動</p> <p>イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実</p> <p>ア 人権基礎教育推進</p> <p>イ 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、実施した学校行事等の総括を踏まえ、さらに充実を図るよう改善を図る。 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校における人権教育の体系化を図る。 教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況についての共有化を一層図る。 SCとの連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「文化的行事(体育的行事)には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が平成29年度実績で90%以上(28年度実績88.7%)。 生徒自己診断「自分は部・同好会活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的評価が平成29年度実績で90%以上(28年度実績86.1%)。 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数が平成28年度実績以上を維持(平成28年度実績22人4団体)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が平成29年度実績で75%以上(28年度実績73.9%)、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が平成29年度実績で55%以上(同50.4%)。 生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が平成29年度実績で60%以上(28年度実績52.7%)。 教職員自己診断「すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が平成29年度実績で70%以上(28年度実績67.4%)。 	
3 次代のグローバルリーダーの育成	<p>(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>ア 議論できる力等の育成</p> <p>(2) 海外の機関や大学との連携</p> <p>ア 高大連携</p> <p>イ 海外との連携</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、ディベートやプレゼンテーション等の学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する機会を充実させる。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、高大連携をさらに進める。 大学の留学生との交流機会の拡大や、課題研究における生徒支援をさらに進める。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の大学や高校との連携をさらに進め、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある」の肯定的評価が平成29年度実績で73%以上(28年度実績71.0%)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「国際理解に関する学習をする機会が充分ある」の肯定的評価が平成29年度実績で73%以上(28年度実績71.6%)。 生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の肯定的評価が平成29年度実績で58%以上(28年度実績52.9%)。 生徒自己診断「国際的な社会課題に関心がある」の肯定的評価が平成29年度実績で70%以上(28年度実績67.8%)。 	

4 【課題研究】	<p>(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 (1) ア・イ再掲 ・初任期教員 (1～概ね3年目の教員；7名程度) に対する力量形成支援を管理職、首席、指導教諭がチームで行う。 ・教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等に参加する教員 (8名程度) が研修成果の校内還元を行う。 	<p>(1)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任期教員に対する力量形成支援のプログラムを年間5回程度行う。 ・教育C研修参加教員による成果発表 (各自1回) を職員会議等で行う。 ・以上の取組の成果と課題について、校内 (GLHS) PTで意見交換し、次年度の取組方針を定める。(1月) <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任期プログラムへの参加、教育C研修への参加と校内発表が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する (肯定的評価90%を目安とする)。 	
	<p>(2) 「知」の継承・発展 ア 「経験知」の継承</p>	<p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓄積された「経験知」の次世代継承に向け、今年度はまず、 ①各分掌業務の可視化 ②「指導と評価の年間計画」の実行に着手する。 	<p>(2) ア</p> <p><取組指標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①来年度 (平成30年度) 当初の引継ぎがスムーズに行えるよう、今年度は、各担当がこれまでの経緯やデータを整理しながら業務を進めるよう心掛けること。 ②各教科で議論を深め作成した「指導と評価の年間計画」を実行することで、教科指導のスタンダード化を具体的に推進するとともに、学習評価を通じて、その改善、進化を図ること。 	
	<p>イ 「経験知」の活用と喫緊の課題解決 ①北野生「育成スタンダード」(仮称) 策定にむけた展望</p>	<p>(2) イ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「育成スタンダード」(仮称) の策定に向け、まずは、 ・教務部、進路部がイニシアティブをとって、高・大・選抜の一体的改革および学習指導要領改訂について教職員に提要し、 ・これからの北野生に身に付けさせたい学力と、そのために必要なカリキュラムのあり方とその構造について議論を深める。 	<p>(2) イ</p> <p><取組指標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①-1 教務部・進路部合同会議 (各代表2～3名) を前後期各1回行い、「たすき掛け」で互いの守備範囲を共有すること。 ①-2 今次教育改革をテーマとした教職員研修を後期に1回設定する。 	
	<p>②新たなWT (ワーキングチーム)</p>	<p>②平成29年度新設のWT (28年度までの4つのWTを発展的に再編) においては、以下の業務に特に意を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断、生活アンケート等を分析し、その結果から、具体的なアクションプランを提案する。 ・オール文理となった本校の今後の広報戦略について具体案を提示する。 	<p><取組指標></p> <ol style="list-style-type: none"> ②-1 WT会議を年間5回程度行い、活動を軌道に乗せる。 ②-2 校内PTに、WT会議の成果 (アクションプラン等) を提案する。 ②-3 可能なものからアクションプランの実行に努める。その際、スクラップ&ビルドを心掛け、やみくもに現行業務量を増やさないう留意する。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WTの活動が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する (肯定的評価90%を目安とする)。 	
<p>(3) 部活動休養日の有効活用</p>	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日の活用の仕方を部活ごとに立案し、学習、アウトリーチ活動の両面で可能な部分から実行に移す。 	<p>(3)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度末に部活動休養日の定着度及び活用の状況を部活ごとに取りまとめる。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度の定着100%、学習面での取組開始100%、アウトリーチ活動の取組開始50% 		
<p>(4) 学習環境のさらなる充実 ア 指導部、保健体育部の働きかけ</p>	<p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主體的な実践を通してみなが清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。 <p><指導部>望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた生徒への継続的な啓発活動</p> <p><保健体育部>校内美化等の環境整備に向けた生徒保健委員会等への活動支援</p>	<p>(4)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動や委員会への活動支援が現に生徒に自主自律の精神を涵養し、生徒の望ましい主體的行動を促しているかどうかを検証する方策を具体的に講じること。(具体的な指標；挨拶、時間厳守、規律・ルールの遵守 (授業規律、服装、携帯電話の使用等)、モラル・マナーの向上 (登下校のマナー、公の場での行動のあり方、校内美化・緑化、清掃の状況等) ・世の中の規範、モラル、マナーがそのまま北野高校の「ルール」となる。 ・その意味や社会的意義を理解したうえで自律的・主体的に行動する。 ・学校の品格は自分たちで築き自分たちで守るもの。 		
<p>イ 予算の効果的執行等</p>	<p>(4) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業第一主義」支える予算の効果的執行 ・教材機器・設備の更新、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 	<p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる分業ではなく、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、よりよい教育活動に向けた創造的提案を行うこと。さらには、具体的な改善事例を一つ以上あげること。 		